

平成22年度 佐賀県立致遠館中学校 学校評価結果

1 学校教育目標 未来社会の文化の創造と発展に力をつくす、豊かな人間性と進取の気性に富む若人を育てる。	
2 学校経営ビジョン (1) 中高一貫教育校として、6年間を見通した効果的な学習指導・進路指導・生活指導の組織的な方策を確立し、6年間のゆとりという利点を生かし、生徒一人ひとりの個性と能力を育てる学校づくりを進める。 (2) 6年間の指導計画の中で、経験や体験を大切に教育活動を重視し、自ら考え、調べ、発表するなどの能力を育て、専門的に学んでいくための高い能力を備えた人材を育てる。 (3) 生徒が高い意識を持って将来の夢・目標をしっかりと定め、それを達成すべく手厚い指導をしていくことで進路実現を図る教育を進める。特に、中高の接続をスムーズなものにし、生徒自身の内発的動機に基づく進路選択を図る。 (4) 保護者や地域との連携を図りながら、開かれた学校づくりを進める。	
3 本年度の重点目標 (1) 生徒一人一人の特性に応じて、高校での学習に必要な基礎的学力及び応用力を養成します。 (2) この7年間の進路指導及び学習指導を検証・改善し、中高一貫教育の充実に努めます。 (3) 日常的な生徒の生活を把握し、問題行動の防止に努めます。 (4) 教育相談の取組を充実させ、生徒の悩み等に対応します。 (5) 生徒の自主的活動を支援し、発展させます。	4 前年度の成果と課題 各項目とも一定の成果を出すことができた。特に、学校経営目標、学力向上、生徒会活動、図書、SSH研究で高い評価が出た。さらに、中高一貫の特色を生かした目標の設定が求められる。また、各具体的方策が学校運営の改善にさらに効果的につながるように、全職員の共通理解と共通行動を徹底する。

5 総括表				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	評価及びその理由
学 校 運 営	学校経営方針	本年度の重点目標の周知 保護者、地域との連携	・保護者の90%以上が本年度の重点目標を知っている。 ・後援者総会、学年保護者会及び学校評議員会を活性化させる。	A アンケート調査で保護者の96%程度が本校の教育方針を理解していると答えている。
	教職員の資質向上	教科指導法研究と指導力の向上 各種職員研修を通じた生徒対応力の向上	・授業研究会を各教科1名以上は実施する。 ・定期的な教科部会を充実させる。また、中高合同の教科部会を通じて、中高一貫教育における教科指導力を向上させる。 ・教育相談や人権・同和教育の職員研修を通して、総合的な生徒対応力を向上させる。	B ・授業研究会は各教科1回以上は実施できた。 ・中高合同の教科部会での教科指導力向上の取組に教科間で差がある。 ・教育相談や人権・同和教育の職員研修会をそれぞれ1回ずつ実施した。
	開かれた学校づくり	公開授業の推進及び情報発信	・各学期1回以上の授業公開・授業参観等を実施する。 ・ホームページの早期更新、EDQスクールニュースの毎月更新を実施する。	B ・1日授業参観日、Jr課題研究成果発表会、エリア・スタディの全体発表会などを実施し、保護者の参加の機会を設けた。参加者数は高学年ほど少ない。
教 育	学力向上	基礎的学力の定着の徹底 応用力の養成	・高校での学習に必要な基礎的学力及び応用力を養成する。 ・自発的学習習慣の定着と家庭学習の充実を推進する。	A ・基礎的学力の定着は、実力テストや外部テストの結果からも十分に図られている。 ・授業やC-timeの充実と、週18時間の家庭学習を目標に学習に取り組むことができた。
	進路指導	中高一貫教育における進路指導の研究	・中学校における系統的な進路指導を研究する。 ・高校に必要な学力を伸ばすための学習指導法を研究する。	B ・中高6年間の進路計画をもとに進路指導を行い、特に中3から高1への接続期の学習指導について検討した。 ・高校に必要な学力を具体的にまとめることができなかった。
	心の教育	豊かで思いやりのある心の育成	・教職員の共通理解のもと、道徳の授業等で心の教育を計画的に実践する。また、機会をとらえても実践する。	B ・ふれあい道徳では、各学年工夫を凝らし取り組み、計画的な取組がなかなかできていない。
	健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	・睡眠・食事についての指導推進する。朝食摂取率を98%以上にする。 ・学業・部活動の両立の推進する。	B ・朝食摂取率は98%からはなかなか増加しない。残り2%の生徒が問題であり、本人だけの問題でもないため、難しさがあつた。 ・1年生では文化部への入部者が多かった。基礎体力向上には、体育の授業の内容や活動で補う必要がある。
	生徒指導	中高一貫教育の特色を生かした「心育てる生徒指導」の確立	・生徒の規範意識を向上させる。 ・思いやりの心を育てる。 ・特に、あいさつ励行、時間厳守、掃除にきちんとした取組の指導を推進する。	B ・ゴミのポイ捨てや机への落書きが時折見受けられた。 ・登下校時の自転車事故が多(発生した。 ・陰湿ないじめは起こっていないが、人の嫌がる言動等の行為が時折あってトラブルになることがあつた。 ・時間厳守、あいさつは概ねできている。掃除については教師が監督をしていないと取組状況にむらがある。
	部活動	部活動による学校の活性化	・部活動加入を推奨する。 ・あいさつの励行やマナーアップを図る。	A ・部活動加入率は90%を超え、短い活動時間の中で充実した活動であった。 ・部活動で学んだあいさつや礼儀が普段の生活に生かされていた。
	生徒会活動	生徒の自主的活動の重視	・生徒による企画、運営に取り組み、生徒の自発的活動を発展させる。	B ・生徒による企画、運営は積極的に行われたが、継続的な取組でなく単発で終わる企画もあり、効果的な自治活動の育成に繋がらなかった面も見られた。
	教育相談	学校不適応生徒への組織的な支援 発達障害への理解と適切な対応	・専門機関や他の職員との連携を図り、組織的に支援する。 ・発達障害等について理解を深め、早期の発見と対応を図る。	A ・スクールカウンセラーや、特別支援の巡回相談事業を活用し、早期に対応できた。今後、発達障害について理解を深めるような研修の場を多く設定していく必要がある。
	保健厚生	心身の健康増進と環境美化	・治療助成生徒の受診率を45%以上とする。 ・全員掃除、ゴミの分別・減量化を徹底する。	B ・治療助成は行ったが、受診率は38%にとどまった。繰り返し指導する必要があつた。 ・全員掃除はほぼできたが、取組についてはさらに徹底させたい。
	研 修	校内外研修の充実	・研修の円滑な運営と検証をする。	A ・1年の波戸岬研修、3年の沖繩研修とともに、関係機関と円滑に連携し、運営できた。 ・1、2年の1日研修は新しい企画を取り入れた。 ・全人教佐賀大会では、ほぼ全員の参加ができた。
特 定 課 題	中高一貫	中高一貫教育の成果の伸張と課題の克服	・有意義な6年間となるように進路指導の充実を図る。 ・中高一貫教育研究委員会を定期的に開催し、改善に繋げる。	B ・中学生に、6年間を見通した進路意識を持たせることができた。 ・中高一貫教育研究委員会では、継続的な課題を残している。
	SSH研究	自然科学への興味喚起	・チャレンジセミナー(理科特別講座)、SPP事業を充実させる。 ・高校のSSHに接続する中学校の選択授業やJr課題研究を充実させる。	B ・チャレンジセミナー・SPPに関しては、生徒からの評価も高かった。 ・選択授業やJr課題研究に関しての評価も高かった。
	体験活動	エリア・スタディ(総合的な学習の時間)の充実	・エリア・スタディを通じて、生徒の課題発見・設定力、情報収集能力やコミュニケーション能力を含めた課題探究力、国語力、社会形成力を育成する。また、一連の活動を通して、今日的な課題に対する認識力を高める。	B ・各学年の年間指導計画に従い、活動を進めていくことができた。 ・さまざまな人や社会との関わりを生かして活動するための講演会や研修を取り入れることができた。 ・最終レポート作成は、特に3年生において、時間不足であった。

6 総合評価 どの項目も一定の成果を出すことができた。学校経営方針、学力向上、部活動、教育相談、研修、図書で高い評価であった。さらに中高一貫教育の特色を生かした目標設定が求められる。特に、中高の接続については改善に努める必要がある。
--

7 来年度の改善策 各具体的目標・方策が学校運営の改善にさらに効果的につながるように、全職員の共通理解と共通行動を徹底していく必要がある。特に、中高の接続については共通理解を図り、改善に努める。また、アンケート調査で「生徒の先生への相談」については低い結果であり、充実した取組に改善していきたい。
--